

# ひかりのこ

5月園便り

聖ミカエル幼稚園  
2018年4月20日

## 月主題：動く

4月11日に入園式があり、新しいかわいらしいお友達がたくさん加わりました。年中さん、年長さんに上がったばかりのお友達も、少し緊張しながら、小さな年少さんを一生懸命お世話しようとしています。年少さんも、年上のお友達が誘うと、とてもうれしそうです。この姿を見ると、やっぱり縦割り保育っていいなあ、とつくづく感じます。

さて、聖ミカエル幼稚園は、子どもたちの成長を願って、様々な保育を行っています。その中でも「絵本による保育」を大変重要視しています。毎日帰りの会の後に、絵本の読み聞かせを行っているだけではなく、一つの絵本をモチーフにしながら、保育が展開されていくこともあります。昨年9月には、全道学校図書館協会の全道大会にて、らいおん組今城先生が、札幌私立幼稚園連合会の研修会ではきりん組西田先生、ばんだ組當摩先生が保育を公開しました。どの保育公開もとても面白く、絵本を切り口にして、子どもたちの様々な力を伸ばすことができることも実感しました。

また、園長の私も現在、北海道教育大学の大学院に通い、今年度は修論で絵本を研究します。私のテーマは『自己を成長させる絵本(仮題)』です。卒園しても、聖ミカエル幼稚園の子どもたちは本が大好きである、とよく聞きます。学校図書館に足を運ぶ子どもも多く、本貸出の学年トップがミカエルの子、という話もよく聞きます。

絵本の力は計り知れません。「読む力」「理解する力」などの「ことばの力」を育むことはもちろんですが、「ことば」とともに、子どもたちの「こころ」を育てるのではないかと考えています。

5月15日(火)には、北海道教育大学大学院教授の植木克美先生にお越しいただき、絵本のお話をさせていただきます。植木先生は、長年、幼児児童の発達支援、子育て支援をご研究されていて、現在、札幌市幼児アセスメント委員会委員でもあります。今回は「お母さんと子どもをつなぐ絵本」と題してワークショップを行います。なぜこの時期、幼児に絵本が必要なのか、そしてお母さん方が絵本をご家庭でどのように用いていったらよいのか、を考えていきたいと思っております。当日はご自分の大好きな絵本を一冊お持ちください。

この講演会は、聖ミカエル幼稚園の保育の柱でもあります。やむを得ないご事情の方を除き、全員のご出席をお願いいたします。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

### 「いま、いのちが私を生きている」

現在、世界中の教会は、キリストの復活を記念する、復活節という時を過ごしています。海外では、教会や自宅に復活を象徴する卵やうさぎ、蝶などの絵や置物を飾って楽しめます。楽しむというところがミソで、おごそかに宗教に向き合うだけでなく、自分のライフスタイルに合った楽しみ方をします。そして、あらためて自分に与えられた「いのち」の不思議を思い、感謝の念を共にします。

以前、浄土真宗のお寺の前を通った時、「いま、いのちが私を生きている」という垂れ幕を見つけました。とても良い言葉だと思うと同時に、キリスト教と共通の考え方に気づかされました。私が自分の命を生きているのではなく、まず先に「いのち」があって、それが私を生かしている、ということです。キリスト教の信仰では、神さまの大きないのちがあり、その一部分を、私たちは貸し与えられて、つまり「おすそわけ」をいただいて、自分がいま生きていると考えます。従って、死ぬということは元の場所にいのちをお返しするということ。いのちには終わりがなく、新しい場所に移っていただけなのです。

このことは、毎日が幸せで元気な人にはピンと来ないかも知れませんが、家族を失った人、自分が重い病いの中にある人には、大きな慰めとなります。復活とは、単に死んだ人が生き返ることではなく、沈んだ人が元氣を取り戻し、死に直面した人が、死は終わりではないと気づかされる出来事です。それを身をもって私たちに伝えたのがイエス・キリストという人です。世界中で多くの人が復活を祝う理由がここにあります。

チャプレン 司祭 下澤 昌